

## 大規模災害から学ぶ地域づくり ～阪神・淡路大震災から20年～

本会では、災害等の有事の際にも地域住民同士の支え合いができるよう、平時からの見守り・安否確認活動を基本とした地域福祉活動を推進しております。去る1月17日(土)、阪神・淡路大震災からちょうど20年が経ちました。その節目となる日に改めて被災地や先進地域における取り組み、そして、これからの災害に強い地域づくりについて学ぶことを目的に、「大規模災害から学ぶ地域づくり～阪神・淡路大震災から20年～」を厚別区民センターとの共催にて開催いたしました。

本稿では、当セミナーの講師を務めていただいた、**一般社団法人ウェルビー・デザイン理事長の篠原 辰二氏**に当日の内容を含めて、「日頃から地域住民同士が助け合える災害に強い地域社会づくり」について語っていただきます。



**Q** 阪神淡路大震災から20年が経ちましたが、その後も大きな災害は毎年発生していますね。災害が発生した地域で起こる課題などはありますか？

**A** どのような災害でも、被災した方々からは「まさかこんな目にあうとは」、「安全な土地だと思っていた」などの言葉を耳にします。自分だけは被害にあわない、ここは安全な土地だ、などといった住民の根拠のない過信は被害を大きくさせる原因になっています。また、地震、竜巻、大雨など、災害の種類にもよりますが、行政による避難情報の遅れや住民の避難を支援する仕組みが整えられていないなどの課題は多く発生しています。



▲阪神淡路大震災  
(写真出所: <http://kobe117shinsai.jp/>)

**Q** 北海道は災害が少ないと聞きますが？

**A** 阪神淡路大震災の2年前に発生した北海道南西沖地震(1995年)や有珠山噴火(2000年)、佐呂間竜巻災害(2006年)などの記憶もまだ新しいのではないのでしょうか。また毎年のように大雪による被害も発生していますし、北海道においても災害は身近な出来事と言えると思います。札幌においても昨年9月10日夜半から11日未明にかけて、大雨による避難勧告が発令されましたし、古い文献などでは札幌市においても大きな地震の発生も記録されています。「災害は忘れたころにやってくる」という言葉もありますが、身近に感じたほうが良いのではないのでしょうか。



◀佐呂間竜巻災害(写真出所: 篠原氏)

**Q** 被災した地域では様々なボランティア活動も行われているようですが？

**A** 阪神淡路大震災では、多くのボランティアが支援に赴き公的支援では不足できない支援活動が行われてきました。その後の災害においても、被災した地域や被災者の生活を支えるため、災害ボランティアセンターなどを中心に支援活動が展開されています。札幌市社会福祉協議会も災害発生時には災害ボランティアセンターを開設し支援活動を行うことを予定しているそうです。しかし、これらのボランティア活動は、日ごろの町内会活動を中心とした地域活動が活発であるほど円滑に機能することができるため、地域住民同士の支え合いの取り組みが求められています。

▼広島市土砂災害(写真出所: 篠原氏)



## ラポールひばりが丘 一の日

平成26年10月登録

「ラポールひばりが丘 一の日」(厚別中央2条4丁目15-2)は、ラポールひばりが丘町内会(浦濱稚郷会長)が実施主体として、集会所を利用したサロンです。毎月1日に、会食やおしゃべりの時間を共有し近況報告など、情報交換を行います。



以前は、不定期に開催していたサロンですが、毎月1日と決めてサロンを開催するようになり、地域の方が集まりやすくなったそうです。

こちらのサロンの特徴は、町内会活動の一つとして実施されているサロン活動であり、発足時の目的がしっかり確認されていることです。目的は、①地域の交流 ②災害時の炊き出し訓練 ということ、災害時の支え合い活動を意識した活動です。

このことから、手作りの昼食が定着し、毎回当番を決めて料理担当の方が5~6名で準備をします。参加者の方も、食事とおしゃべりを楽しみに毎月サロンへ参加しています。



〈箸入れを作成〉



〈昼食は天井です〉

## ふれあい いきいき サロン

新規サロン紹介

ふれあい・いきいきサロンは、身近な住民どうしの仲間づくりをとおして、地域の見守り活動につながります。



## 結の会

平成26年12月登録

青葉町A団地に発足した「結の会」(青葉町1丁目1番地)は、団地の集会所を利用した、毎月1・3木曜日の午後に活動しています。



身近なところで、集える場所がほしいということから、団地の有志メンバーでサロンを立ち上げました。

取材にお伺いした日は、老人クラブで“ものづくりの指導”をするということで、その準備を行っていました。ひなまつりの飾りを作成するため、50人分の飾りの土台を作成しています。

作業はたくさんありますが、手元をずっと動かしながら、おしゃべりは尽きません。

他の日は、編み物をしたり、外食へ行く日もあるようです。先日は、以前から気になっていたという、ファーストフード店へ行きエビのハンバーガーを食べたそうです。「一人ではできないことでも、みんなと一緒にだったらできるね!」と話しながら、次回は何をしようかと相談していました。



〈活動の様子〉



〈雛人形の飾り〉

区内のサロンは37団体の登録があり、地域のたまり場として、たいへん多くの方が参加しています。

サロンは、助けたり、助けられたり…支えあい活動が何よりも大切です。参加者もボランティアも共に楽しみながら活動することで、少しずつ地域に根ざしてきています。



●助成対象サロンのみの実績